

深谷地域のみなさまへ



介護のこれからを考える

映画上映会

入場無料

ぼけますから、よろしくおねがいします。(短縮版)

令和元年度文化庁映画賞文化記録映画大賞、第43回日本カトリック映画賞、第92回キネマ旬報ベスト・テン文化映画3位、2018年度全国映連賞特別賞 他



上映時間48分

認知症を患った母と、その母を支え続ける父。老々介護の中で起こる戸惑いや葛藤、そして小さな笑いや深い愛情を、娘である監督がカメラに収めたドキュメンタリー映画です。

介護の現実と、家族の絆、これからの介護の在り方を静かに問いかけます。 詳細は裏面へ

お申込みは

だんらんまでお電話ください。

13時上映開始

▶ 3月14日(土)

深谷地域福祉事業所 だんらん

〒366-0035 埼玉県深谷市原郷691-1 ☎048-574-9065

ばけますから、
よろしくお願いします。

カマを向け、初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。



広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ／関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。

